

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

平成 25 年度病虫害発生予報第 9 号 (12 月) について

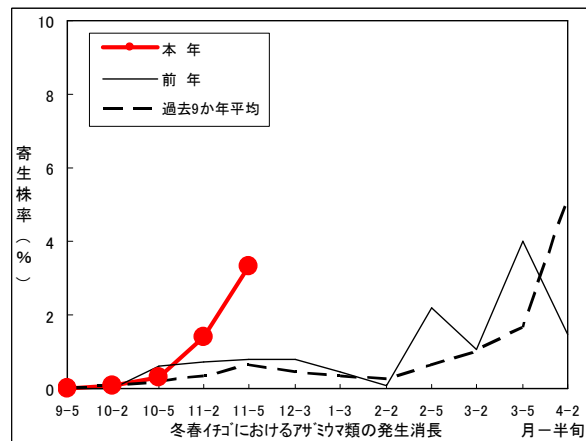
このことについて、病虫害発生予報第 9 号を発表したので送付します。

予報第 9 号

**イチゴのヒラズハナアザミウマの発生に注意しましょう！**

一部のイチゴほ場で、ヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。成幼虫が花に集まって吸汁し、主に花弁や幼果に被害が生じます。

イチゴのヒラズハナアザミウマに対する効果的な薬剤は限られているため、発生消長を踏まえた薬剤防除を行いましょう。



**イチゴの花のヒラズハナアザミウマ**

(雌成虫は、体長約 1.3mm で褐色～黒褐色、雄成虫は雌に比べてやや小さく、淡黄色を呈す。)

<予想される向こう 1 か月の天候 (平成 25 年 11 月 23 日～12 月 22 日) >

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 か月の気温は低いでしょう。降水量は平年より多く、日照時間は少ないでしょう。

週別の気温は、1～2 週間目は平年より低く、3～4 週間目は平年並か低いでしょう。

**向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)**

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	5 0	3 0	2 0
降 水 量	3 0	3 0	4 0
日照時間	4 0	3 0	3 0

(福岡管区气象台 平成 25 年 11 月 22 日発表抜粋)

12月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (12月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	やや少 並	やや少 並	並 並
冬春ナス	すすかび病	やや少	やや少	やや少
冬春トマト	葉かび病	やや少	やや少	並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病	並 多	並 多	やや多 多
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 並	並 並	少 並

### 作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

### 【野菜：冬春イチゴ】

#### 1 うどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病株率 0%（平年 0.4%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（±）。

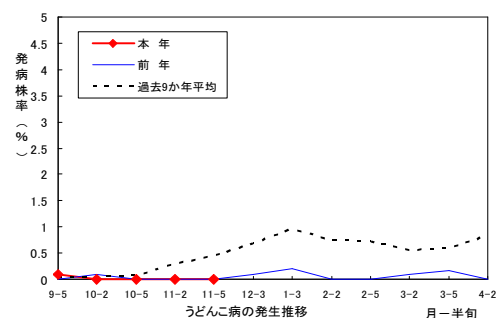
##### (3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、葉液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



#### 2 ハダニ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

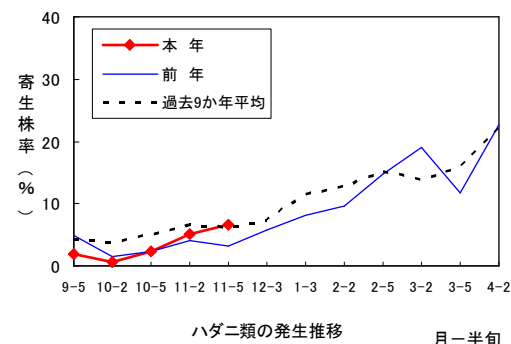
##### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。  
寄生株率 6.7%（過去9か年平均 6.1%、前年 3.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（-）。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。



- イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。また、摘葉した葉や除去した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。
- ウ ハウス内と周辺ほ場の除草を徹底する。
- エ 天敵を利用する場合は、天敵類への影響が大きい合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。

## 【野菜：冬春なす】

### 1 すすかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－)。

発病葉率 0.4% (平年 2.0%、前年 1.1%)

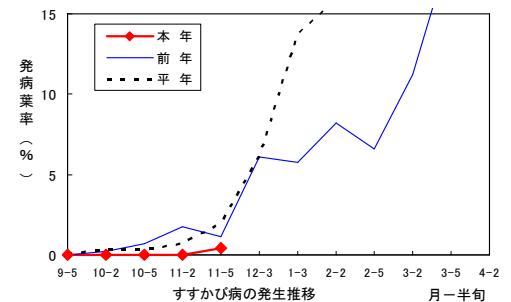
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春トマト】

### 1 葉かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－)。

発病葉率 0% (平年 1.0%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

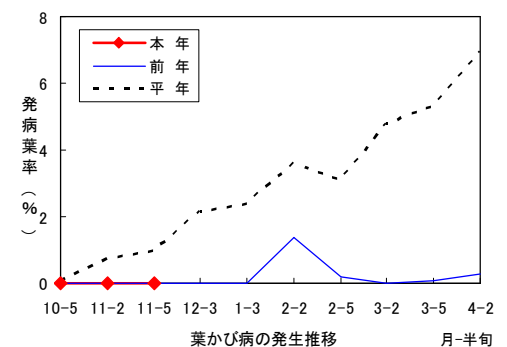
#### (3) 防除上の注意

ア 薬剤は葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。

エ 抵抗性品種での発生も確認されているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 べと病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

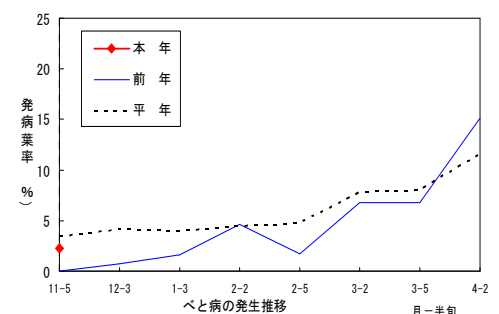
発病葉率 2.3% (平年 3.4%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



## 2 うどんこ病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

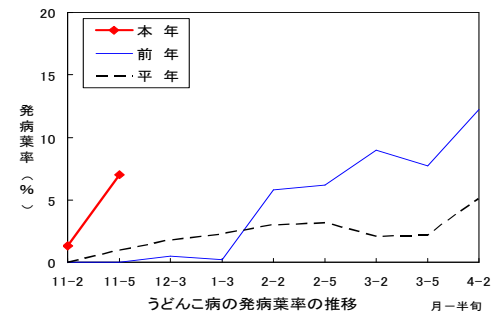
発病葉率 7.0% (平年 1.0%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



## 【野菜：共通】

### 1 ミナミキイロアザミウマ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査の結果、ナスでの発生量は平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 19.1% (平年 21.3%、前年 39.8%)

ナス発生ほ場率 88.9% (平年 89.3%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(-)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

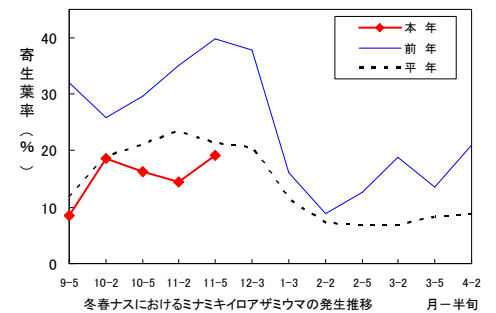
ア 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。

また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



## 2 コナジラミ類

### (1) 予報の内容

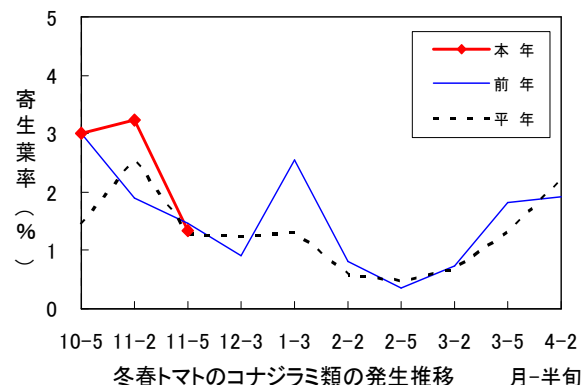
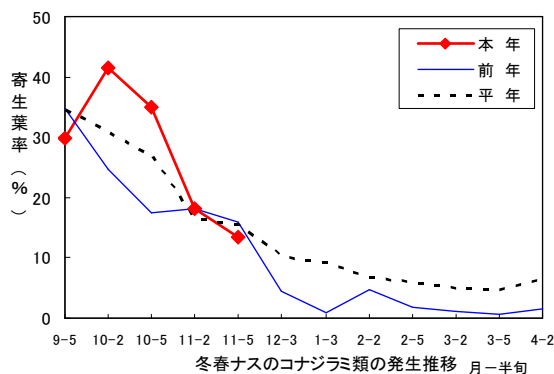
発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

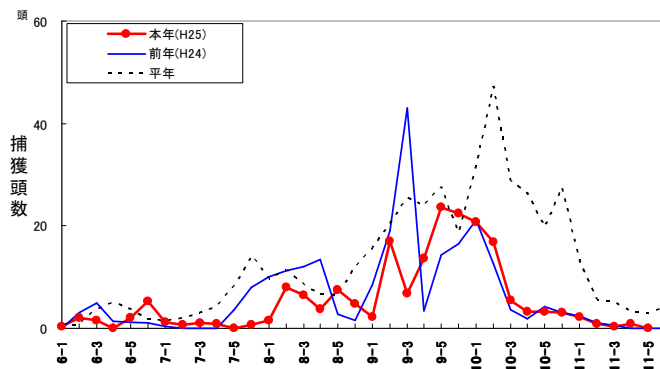
ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 13.4% (平年 15.6%、前年 15.9%)

トマト寄生葉率 1.3% (平年 1.3%、前年 1.5%)



イ トマト苗トラップにおける11月1～5半旬の合計捕獲頭数は、平年より少なかった。(-)  
筑後市 4.2頭 (平年 30.6頭、前年 3.9頭)



トマト苗トラップでのタバコナジラミ類捕獲頭数の推移(筑後市) 月-半旬

- ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。
- イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。
- ウ 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。
- エ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- オ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。

**【野菜：その他の病害虫】**

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (12月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	・罹病果は見つけ次第除去する。 また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
冬春ナス 灰色かび病	並	並	並	・罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ処分する。
冬春トマト 灰色かび病	並	並	並	・開花後の萎れた花卉は、伝染源となるので取り除く。
冬春キュウリ 灰色かび病	並	並	並	・開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。 ・初期防除を徹底する。
褐斑病	並	やや少	並	
冬キャベツ 黒腐病	やや多	やや多	やや多	・予防散布に努める。  ・防除適期は結球開始期である。 株元に十分係るように、株周囲から散布する。 ・若齢幼虫期に防除する。
菌核病	並	並	やや多	
コナガ	少	少	並	
冬レタス 灰色かび病	並	並	並	・発病株は抜き取り処分後、直ちに薬剤をする。 ・灰色かび病との同時防除を行う。 ・凍害を受けると被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。
菌核病	並	並	並	
腐敗病	並	並	並	

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・有用昆虫・河川等に対する配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬ラベル確認の徹底

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数・有用生物〈みつばち等への影響〉)

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 散布前における情報提供の実施

(散布区域に近接するほ場、住宅地、養蜂等の関係者、他)

## 3 散布時には近隣作物や住宅地等周辺への飛散防止を徹底

- ・風、散布方向、散布時間、散布圧に留意
- ・飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用
- ・散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

## 4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

## 5 防除履歴の正確な記帳

- ・薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳

## 6 空容器の処分

- ・空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。  
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:byougaichuboujyo@pref.fukuoka.lg.jp)